

本来ならば、私たち地元12町を代表する連合町会長がこの場で意見陳述をさしてもらうのが本意ではございますが、本日公用のため代読させていただきます。それではよろしくお祈りしますが、私もまだ慣れておりませんので、お聞き苦しい点が多々あるかと思っておりますが、その辺よろしくお祈りしたいと思います。

それでは、代読させていただきます。

私は、ダム建設が予定されております横山地域で校区会長をしております。今日は再度の意見陳述を行う機会をつくっていただきましたが、あいにく農林業振興の行事があり、どうしても出席ができませんので、書面で再意見陳述をさせていただきます。

私は前回、横山に住む者にとって、豊かな古里を築くためには、どんなことがあっても、まずみんなの安全が確保されなければならないとの観点から、ダムの積極的な推進に賛成の立場で意見を陳述しました。これまで私は、自分たちの住む地域の公共事業について、専門家の有識者の先生方や環境問題などに取り組んでおられる方々の前で地域の考えを話す機会がありませんでしたので、私のお話しする賛成意見の内容が再評価委員の先生方や報道関係者の方々にどのように受け止められるか、大変不安でした。その後、NHKのニュースでは、私の賛成意見陳述も報道され、翌日の新聞には賛成意見の記事も載せていただき、技術的な問題や環境問題などのように、専門的な意見だけが重視されるのではなく、地域に住んでいる私たちの考えも取り上げてもらえたことに大変感謝しております。

おかげさまで、後日、私の賛成意見陳述にも地域の多くの方々から様々な励ましのご意見を頂くなど大きな反響がありました。中でも話題が沸騰しましたのは、私が前回申し述べました都市に住んでいる人が中心になっていきますダム建設の反対運動であります。

生活環境が整っていて、利便性の高い都市で生活をしている人たちは、農村で自然と共存しながら生活をしなければならぬ私たちの暮らしがどのようなものか、理解しがたいと思います。また、私たちが感じている自然の怖さと自然に接することのない都市環境に住む人たちの自然に対する考え方とは、当然大きな隔たりがあって当たり前だと思っております。

それだけに、私は遠くから山を眺めている立場にある反対派の人たちが一番に尊重しなければならぬダム建設地域の住民の主体性を無視して、無責任極まりない独りよがりの意見や唐突な行動を起こすことに大きな怒りを感じています。

災害から人命を守り、府民の財産を守るために建設する槇尾川ダムは、行政の当然の使命であり、反対派の人たちが言うような税金のむだ遣いを見直すために、再評価委員会で議論する課題ではないことを強く申し述べるとともに、槇尾川ダム事業推進に向けて一日も早く大阪府の基本的な見解を示していただきますようお願い申し上げます次第であります。

私は、今日、大阪府がどのような公共事業に取り組んでいるか、よくは存じ上げません。また、財政再建にどのように取り組もうとされているのかも詳しくはわかりませんが、少なくとも財政状況が非常に厳しい中、可能な限りの公共事業の見直しを行うために、日夜大変な努力をされておりますことは高く評価しております。

しかしながら、どのような状況にあらうとも、災害から未然に府民を守るためには、何を差し置いても、万難を排して、ダム建設に積極的に努力していただくべきだと思っております。このことは本来あるべき行政の責務であると考えているからです。

例えて申すならば、どの家庭においても家計を節約するために家族の命を守る医療費と

食料費や家電製品の購入費用など同様の次元で家族が話し合いをするでしょうか。だれが考えてもあり得ないことであります。

私は、府民生活の利便性の向上や豊かさにつながる公共事業が、様々な観点から再評価委員会で審議されることは大切なことだと思っております。それだけに、行政の主体性で執行すべき事業と府民の意見を聴いて行う事業とは、はっきり区別して、議論をしていただきたいと思えます。

確かに全国的に取り組まれているダム事業の中で、建設に強く反対している事例がかなりあることも承知いたしております。そうした事例が、時としてテレビなどのニュースやドキュメント番組で取り上げられておりますが、その多くは、電力や水などの資源開発を目的としたダムの建設であって、基本的には、都市に住む人たちの生活環境を満足するために、山間部などで生活をしている人々に都市のエゴを押しつけ、犠牲を強いるという構図が見受けられます。

住み慣れた村がダム湖に水没してしまい、先祖伝来の田畑のみならず、住み慣れたわが家をも犠牲にして移り住まなければならない人たちの気持ちを考えますと、居たたまれない気持ちになります。

都市に住む人達のエゴによって引き起こされた問題を、平和に生活している農村の人たちに押しつけ、自分たちで解決をしようとしなければかりか、悩み、苦しんでいる人たちを尻目に、自然環境の保全や歴史遺産の保護の賛否を勝手気ままに叫ぶこと自体が、本末転倒した当事者不在の議論だと気づいていないことに本当に腹立たしく思います。

むしろ自然環境の保全を叫ぶ前に、廃墟した都市にこそ自然環境を取り戻すための努力をすることが都市に住む人の使命ではないでしょうか。それも議論だけではなく、まず自分の家庭からできることを実行すべきだと思います。

緑豊かな自然を残すことは私も大切だと考えていますが、このような資源開発は都市部で解決できない問題であるからこそ、その地域の住民の主体性を重んじた上で、二次的に自然環境などを議論すればよいと思えます。

また、自然開発を目的としたダムの事業以外にも、いろいろな目的でダムが計画されておりますが、私はそれぞれに事情の違いというもの認識し合わなければならないと思えます。人の命と自然環境を比較することはできません。それと同じように、災害から地域を守らなければならない榎尾川ダムの建設を他の公共事業と同様に扱うことはしないでもらいたいわけです。

私たちのような農村に住む人間と都市に住む人間との生活環境の一番大きな違いは、自然環境から受けるメリットとデメリットであります。私たちの地域で自然環境と共生するということは、自然の怖さを知ることであり、常に人々の命を驚かす、また自然と調和を保つためには、たとえ不便な生活環境も甘受することであり、残念ながら、都市には自然環境を身近に感じるものがないため、都市に住む人たちは自然の利便だけを見てしまいがちであります。このことは、榎尾川ダム建設に反対されている方々の論点が、常に都市に住んでいる人の安全性と自然の利用という点にあることです。自然環境の保全を叫ぶ裏には、都市に住む人の自然の利用ができなくなることであり、幼いころに生まれ育った古里の自然への思い入れだと思えます。

それだからこそ、私たちの地域の災害を考えない、下流域の都市に近い洪水調節池の議論が出てくるのだと思えます。私は榎尾川ダム事業は、あくまでも自分たちの身近に存在する災害から身を守り、財産を守るための大切な公共事業であると認識しております。そ

れゆえに、先ほど申し上げましたように行政の主体性を持って、行政の責務を執行していただきたいわけであります。

私たちの事業推進の立場は、地域の利便性の向上だとか地域活性のために、やみくもに行政の言いなりになって後押しをすることでは決してありません。技術的にも専門家ではないので、わからないことも多々ありますが、過去の経験に基づく緻密な技術を信頼し、総合的な状況判断に基づいて事業推進の立場をとっているわけであります。

私たちの住む和泉市は、昔から温暖な瀬戸内気候であるため、ふだんから川の水が少なく、旱魃の年には水騒動が起こるなど、農業用水の確保に大変な思いをしてみいました。こうしたことから古くから数多くのため池がつけられています。中でも光明池は、槇尾川ダムの5倍近くの最大貯水量 370万 $\text{m}^3$ の機能をもった農業用ため池であります。また、歴史的にも有名な梨子本池など、槇尾川ダムをしのぐような大きなため池が、私たち先人の自然との繰り返しの戦いの中で多くの犠牲を払ってつくられてきました。

こうした一つひとつのため池も、築造段階では自然環境を破壊していたものと思われませんが、現在は多くの人たちが水辺環境の整った緑地公園として復元された自然環境を大いに満喫しておられます。

確かに今日までの都市の開発によって失われた自然環境は、復元力を持たない環境であり、このことが都市住民の自然環境に対する危機的な認識となっていることも理解しております。こうしたことから、自然環境の保護といえますと、ほとんどの人が今まさに失われかけようとする人間の手による自然破壊に目を向けます。しかしながら、我々は地域の中であって、台風や大雨などによる地滑りなどの自然自身が引き起こす自然破壊をも食い止めるため、地元、行政と一体になって自然を守ろうと努力しております。

また、一方では、自然の治癒力を過去の経験から理解し、受け入れることのできる自然破壊とそうでない自然破壊を、毎日の生活の中で身近なものとして判断をしております。

最後になりましたが、こうした私どもの総合的な判断による地域の思いというものを再評価委員会の皆様方にご理解を賜り、反対をしておられる方々の言われるような税金のむだ遣いにはならない答申を賜りますようお願い申し上げまして、書面ですが、再度の意見陳述とさせていただきます。

(追加意見—代読者による)

切実に訴えたいと申しますのは、我々は川だけではなく、農業用の用水路もたくさんあるわけです。大雨が降ると、我々夜中であろうと、皆さん出ていただいて、その管理もしているわけです。そのときは、ここにおられる方(別の陳述者)の家の中に浸かったりすることもあります。そのときは我々も大変苦労して、いつまでも農業用水と川とを見ているわけです。だから、川に流れるのをさくに流してくれとおっしゃるんですけども、それを川に流すと、水が多く膨れるわけで、そういう関係をもっと考えていただきたい。地元の我々としてはそういうふうに思うんです。

一番言いたいのは、農業用水、また川と一緒に考えた場合は、ダムが必要ではないかといつも感じているので、切にお願いしたいのはそれだけでございます。

以上です。どうもありがとうございました。